



新たな年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願い致します。

高橋代表が住まい塾運動を立ち上げ、スタートした年が 1983 年。今年で 40 年を迎えます。ブログ“信州八ヶ岳 高橋修一の『山中日誌』”では、高橋代表が日々感じた事を届けていますが、昨年末には通算 300 回を超える掲載となり、廻りでは毎週心待ちに読まれてる方々の感想を耳にします。今回、『《住まい塾》運動“原点とこれから”』というテーマで寄稿していただきました。
編集委員 菅谷 輝男

脳出血で倒れてからリハビリに明け暮れたこの 5 年は、設計者としての私自身にとっては失われた 5 年間であったと同時に、人間を考え、学ぶ機会を与えられたよき 5 年間であったとも云えます。

6 誌（※1）にのぼる建築及び住宅関連の雑誌を創刊し、『住宅建築』の創刊者でもある平良敬一さんからは、『《住まい塾》』のスタート時に「運動ってのは 3 年もてば合格、5 年もったら立派なものだ」と言われたのを鮮明に記憶しています。あれから 40 年が経ちました。

原点の熱き思いとその純粋性を保ち得て来たかといえば疑問に思うところが多々ありますが、設計者・施工職人・住み手三者の共感関係を大切にしながら、原点を忘れまいと努めて来たということだけは胸を張って云えるように思います。人間もフンドシと同じ、40 年も経てばどうしても緩むもの——気づいたその度に締め直してきたつもりではありますが、振り返ってみると、平良さんのあの言葉はやはり重いのです。

その平良敬一さんも 2020 年 4 月 29 日 95 歳でお亡くなりになりました。

我々が歩んだ 40 年間に『住宅建築』誌で『《住まい塾》』の特集号を含め掲載されたものは 10 冊以上に上ります。その間、編集長は平良さんから立松さん、植久さん…2006 年から 2010 年までの約 5 年近く再び平良さんが編集長に返り咲いた時期がありましたが、その後は小泉淳子さんが引き継いで今日に至っています。

『《住まい塾》』の原点がよく判る特集号があります。上記の平良さんが代表編集長に返り咲いた頃の特集号：2006 年 10 月号（No.379）（※2）です。建築家の趙海光さんと共に“私（高橋）に聴く”という形で、平良さんもこの座談に加わっています。また、初期から一緒に仕事をして来たロートアイアン（鍛鉄）を中心とした造形作家 松岡信夫さんとの対談、そして私の初期の文章も併せて載せられています。勿論、『《住まい塾》』から生まれた舎 9 題も掲載されていて、充実した内容の一冊です。

ここに語られている『《住まい塾》』の原点は多くの問題に採られながらも私の中では今も燃え続けています。是非、皆さんにもスタッフの皆にもスミからスミまでじっくり読んで、この 40 年という節目の年に改めて『《住まい塾》』運動の原点を再確認してもらいたいと願っています。

新しいステージを迎えようとしている『《住まい塾》』の真価が問われるのはこれからではないかと思えます。

建築工房ゆほびわ（賛助会員）の末吉さんはいつだったか、「手刻みを善しとしている我々大工職人にとって『《住まい塾》』は希望の灯（光）だ」と言ったことがあります。我々『《住まい塾》』の設計スタッフは、こうした職人達の想いをも背負いながら歩いていく必要があるのです。

三者の連携とは云っても要の役割を果たすのは、やはり設計者なのですから…。

『《住まい塾》』代表 高橋 修 一



※1）：『建築知識』、『建築』、『S.D』、『都市住宅』、『住宅建築』、『造景』

※2）：発行時、有害化学物質ホルムアルデヒドが社会問題となり、この号の背に使われた“のり”に不具合が生じ、バラバラになる製本不良でした。その後、大日本印刷に製本をやり直して貰いましたので、現在、本部にあるものはしっかりしています。

版元品切れですので、どうぞ電話またはメールで本部にご注文ください。

『住宅建築』2006 年 10 月号（No.379）「住まい塾」高橋修一の目指すもの

定価 2,450 円（税込み）送料込み

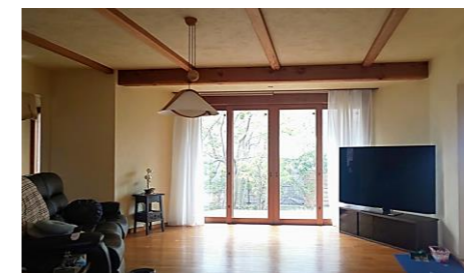
コロナ下で再認識 ～我が家の居心地よさ～

ユーザー 柴崎 啓二

早いもので住まい塾で我が家を建てていただいてから 17 年になります。新築当時から変わらぬ、ぬくもりのある気持ちよい空間です。ここ数年は新型コロナの影響で、Stay Home、在宅勤務が増えて、以前にもましてお家時間が長くなっていますが、ストレスなく暮らせています。

在宅勤務時は、リビングとその横にある小さな仕事スペースにいることが増えています。PC に向かって仕事をし、飽きるとリビングでくつろぐという感じです。旅行に行けないのでその代わりに大型テレビに買い替えたのですが、ちょっと休憩と言いながら、ネット接続でスポーツや映画など堪能しています。寒いときは床暖房をつけて床に寝転んで見えています。（床暖房は本当に優れものです）

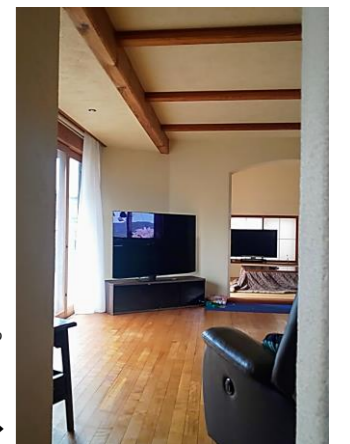
新築時に高橋代表から「良質な建物が人を育てる」というような主旨の話を伺ったのですが、歳が年ですので、「育っている」実感はありませんが、「気分が楽だな」というのは実感します。特に、コロナ下ではとても得難いことだと、再認識しています。



←リビング
左端に少し見えるのが
仕事スペースの入り口
（通称コックピット）

✓右下に見えるのは
ヨガマットを利用した
妻愛用のパターン練習場

コックピットから
見たリビング
（椅子を 90 度回
せばすぐ休憩）→



見学会などのご案内について

少人数限定での見学会などは、メールアドレスを登録されている方のみにお知らせさせていただくことがあります。郵送で案内を受け取られている方は、メールアドレス登録をお願いいたします。

メールでの案内送付に変更されたい方は、E-mail にてメールアドレスと登録の旨をお書きいただき oshirase@sumai-jyuku.gr.jp 宛にお送りください。